

なぜ今、体育館空調・断熱整備なのか

「気候変動、スポーツ体験格差及び災害リスクに対応する学校体育館整備モデル構築」

IGES・エネルギーまちづくり社・SDGs in SPORTS

2026年7月13日（月）

SDGs in SPORTS代表理事 井本直歩子

課題

1 夏場の体育館の利用ニーズ拡大

地球温暖化により、夏場の屋外でのスポーツ活動はできなくなり、体育館の利用ニーズが拡大。

2 都市と地方との空調整備の格差

全国の公立小中学校体育館等における空調設置率は約2割で、特に都市部（東京）と地方との空調整備の格差が深刻（[文科省、2024、3頁](#)）

3 断熱未整備により空調効率が悪く、電気代が膨大

空調が整備されていたとしても、断熱がなされていない場所ではエネルギー循環効率が悪く、電気代が嵩むため、エアコンを使用できない状況も多発

→ 空調の整っていない体育館では夏場のスポーツがストップ

4 災害時の健康リスク増大

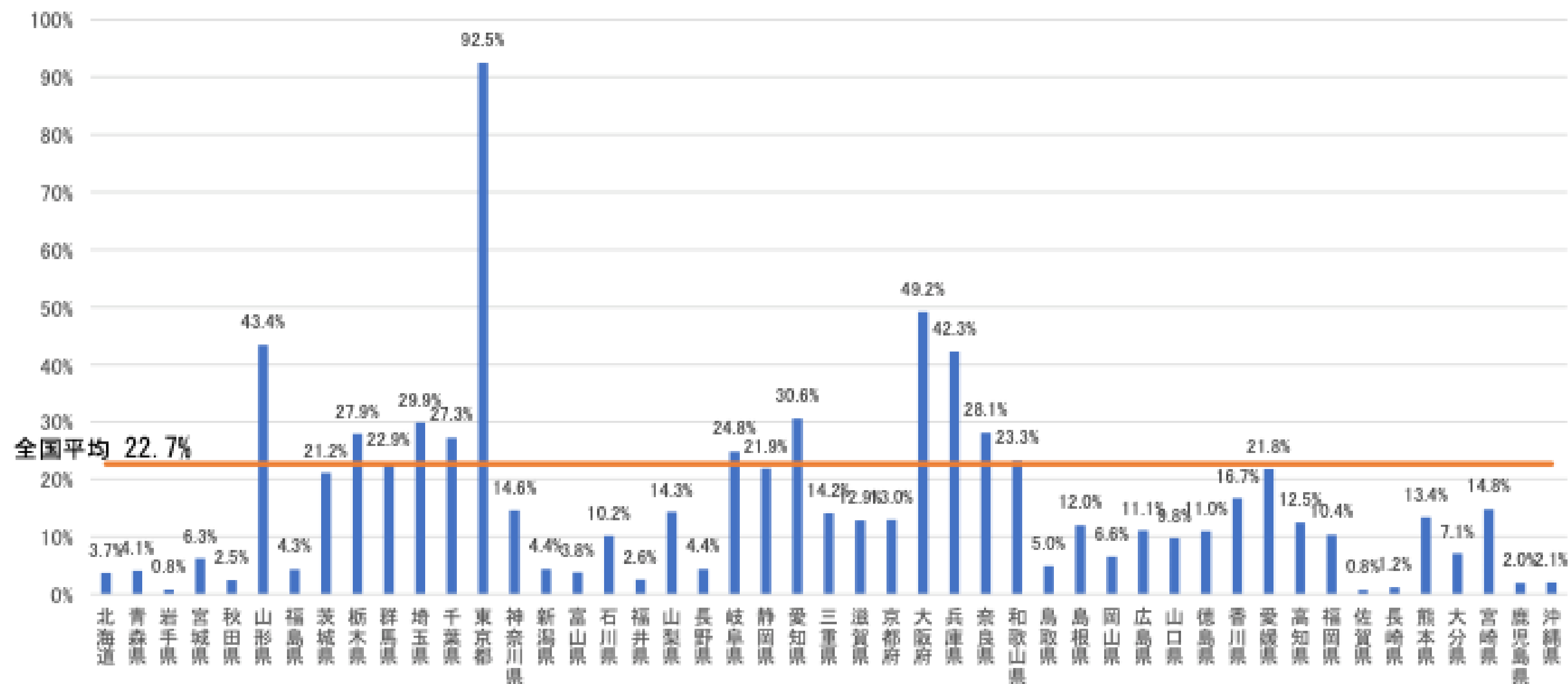
気候変動で異常気象が増え、豪雨・洪水・山火事等自然災害が増えている中、夏場・冬場にエアコンが整備されていない体育館は防災拠点として使えない。

5 石炭火力使用により地球温暖化を悪化させる

ほとんどの学校のエネルギー源は火力発電であり、断熱整備がされていない体育館では空調を整備してもエネルギー効率が悪く、地球温暖化をさらに悪化させる。

令和7年5月1日時点

空調（冷房）設備設置状況（小中学校）



資料：文部科学省（2025）

文部科学省（官公庁）

企業・個人

自治体・学校

アスリート・スポーツ団体

建築

クリエイティブ

環境

広報・メディア

子どもたちの
スポーツと
避難所を守る